

嶋田友春等が美術院對抗策として設立したる工巧會改め精藝會の威勢を張らんが爲め強て彼等の就職を斷念せしめんと欲し或ハ美術史編纂の事ありと稱し或ハ博物館摸寫の事ありと稱し之に依りて十分の手當を得るの道もあれバ研究旁々暫らく會員に加はりて盡力せらるゝことハ如何などいひて連り之を引留めたりしが編纂も摸寫も思ふに任せず未だ着手に至らざれば卒業生等ハ今更に後悔し斯てハ遂に糊口の道にも窮するに至るべしとて目下頻りに苦情を翻し居れり斯くと聞きたる美術院ハ機失ふべからずとなし今回更に準會員なるものを置き正會員指揮の下に依托製作の業に與からしめこれによりて相當の報酬を與ふるの制を立てたれば彼等ハ宛ら大早の雲霓に於けるが如く陸續として入會を申込み來れりと

(明治三十一年八月七日『万朝報』)

⑦ 日本絵画協会第四回、第五回共進会

明治三十一年三月十八日から同年五月一日まで、上野公園旧博覧会第五号館で日本絵画協会第四回共進会が開催された。今回は特に図案の部門が設けられた。四月二十六日、即ち橋本雅邦以下本校辞職組の辞表が受理された当日、褒賞授与式が行われ、川合玉堂「花見」と小坂象堂「養雞」に銀牌が、小堀鞆音「内野の雪」、下村観山「小町」、菱田春草「観画」、寺崎広業「歳の市」に銅牌が、また、木村武山その他百三十名に褒状が授与された。

第五回共進会は美術学校騒動後の十月十五日から十一月十五日まで日本美術院で開催された。開会は日本美術院開院式と同時に同行

れ、また、これと併せて日本美術院第一回展覧会も開かれた。十一月五日に褒賞授与式が行われ、横山大観「屈原」、下村観山「者維」、寺崎広業「後赤壁」、尾形月耕「江戸の花」に銀牌が、西郷孤月「蘇武」、菱田春草「武蔵野」、小堀鞆音「恩賜の御衣」、川合玉堂「孤鹿」、山田敬中「那須の篠原」、邨田丹陵「森蘭丸」、木村武山「野辺」に銅牌が、また、水野年方「美人」その他に褒状が授与された。なお、この十月には日本美術院の機関誌『日本美術』が創刊された。